

● セミナーのご案内

周辺視目視検査法セミナー

～外観目視検査の生産性を倍にする！～

外観目視検査では一般的に「集中」して「不良を探す」ことが求められます。実はこれが見逃しをまねく大きな要因となっています。集中力は短時間しか持ちません。ベテラン検査員は「良品の確認」と「リズム」で検査をしています。

本セミナーでは、ベテラン検査員の機能分析と目の機能展開にもとづいて開発された新しい外観目視検査法「周辺視目視検査法」を学びます。周辺視、瞬間視、衝動性眼球運動という視覚システムの活用とリズムによって生産性は倍になり、さらに照明などの作業環境を最適化することで見逃しを削減し、検査員の健康改善にも効果を発揮します。

本検査法は、講師佐々木氏が、日本IBM生産管理部門在勤当時に着想・開発されたものですが、講義の中で、現場改善の具体的事例の紹介や苦労談のご披露、終了後の個別相談の時間も設けております。 <<皆様のご参加をお待ちしております！>>

とき：2019年11月12日 火 10:00～16:45(9:30開場)

ところ：公益財団法人中国地域創造研究センター大会議室
(広島市中区小町4-33 中電ビル3号館7階)

講師：周辺視目視検査研究所 代表 佐々木 章雄 氏 定員24名
個別相談あり(希望者)

参加対象者 ものづくり企業の検査・品質管理に関わる管理者・指導者および検査員の方

申込方法 添付参加申込書に必要事項記入の上 11月5日(火)までにお申し込みください。
参加確認証を折り返し、ご送付いたします。

参加費 3,000円 (昼食、テキスト、資料付)
お支払いは、当日、現金にてお願いいたします。(領収書をお渡しします。)

主催 公益財団法人 中国地域創造研究センター
〒730-0041 広島市中区小町4-33(中電ビル3号館)
TEL 082-241-9980(事務局直通) FAX 082-245-7629

● カリキュラム

講義(第1部) 10:00~12:00

昼食休憩(お弁当準備します) 12:00~13:00

講義(第2部) 13:00~15:30

個別相談会(希望者対象) 15:45~16:45

項目		内容
1	周辺視目視検査法の理解	① 従来の官能検査の特徴と問題点 ② 大脳視覚システムの機能と限界 ③ 周辺視目視検査への切り替え ・集中視力から周辺視力へ ・凝視から瞬間視へ ・滑動性眼球運動から衝動性眼球運動へ
2	周辺視目視検査法の導入方法	① 原理の正しい理解 ・周辺視目視検査法は大脳視覚システムの疲労を大幅に軽減する ② 限度見本の作製 ・「視覚」記憶の作り込みのために現物で訓練する ③ スムーズなハンドリング ・1日中作業することを考慮したリズムカルな動作の構築 ④ 正しい作業姿勢 ・リズムがよい疲労の少ない作業姿勢になる ⑤ 導入時の特徴 ・リズムができていないときに見られる特有の現象など
3	見逃しの原因となる検査対象物と光源の関係	① 明るいほど見やすいか ・照明の明るさより眼に届いたときの明るさが大事 ② 検査用途ごとの光源の種類と適用方法 ・平行光、拡散光、透過光の正しい使い方と眼精疲労を改善 ・ビームライトによる透過検査の見逃しの理由 ③ 単純な見逃しに多い「明順応」と「暗順応」 ・「明順応」と「暗順応」とは、どのような現象か ・危険な状態である「馴化」とは、どのような現象か
4	周辺視目視検査の事例紹介	・海外工場、国内工場での事例
5	うまくいかない検査方法	・光源の種類と配置、拡大鏡検査、多数個取り
6	検査員の健康状態の変化	・検査員の健康状態の変化
7	質疑応答等	

個別相談会(佐々木講師)

1社 10~15分程度【希望者・予約制】

● 講師紹介 (佐々木 章雄 氏)

1970年 日本IBM 藤沢工場に入社以来、一貫してIE(Industrial Engineering)業務に従事

1998年 特に専門とする動作分析を基礎として検査作業の分析と機能展開により「周辺視目視検査法」を開発。

2003年 HDD事業部が日立に売却された後、一時早期退職し中国の企業でIEの指導を行っていた。また、日立グローバルストレージテクノロジーズ(GST)の海外量産工場生産性向上の指導のほか、「周辺視目視検査法」の共同研究を行う傍ら、同検査法のセミナー講師やコンサルタントを行う。

2012年 日立GSTを退職後、周辺視目視検査研究所を設立。

* 現在、同検査法のセミナー講師、コンサルタントとして活躍中。精密工学会画像応用技術専門委員会の香川大学工学部石井明教授グループ(感察工学研究会)との研究も行っている。